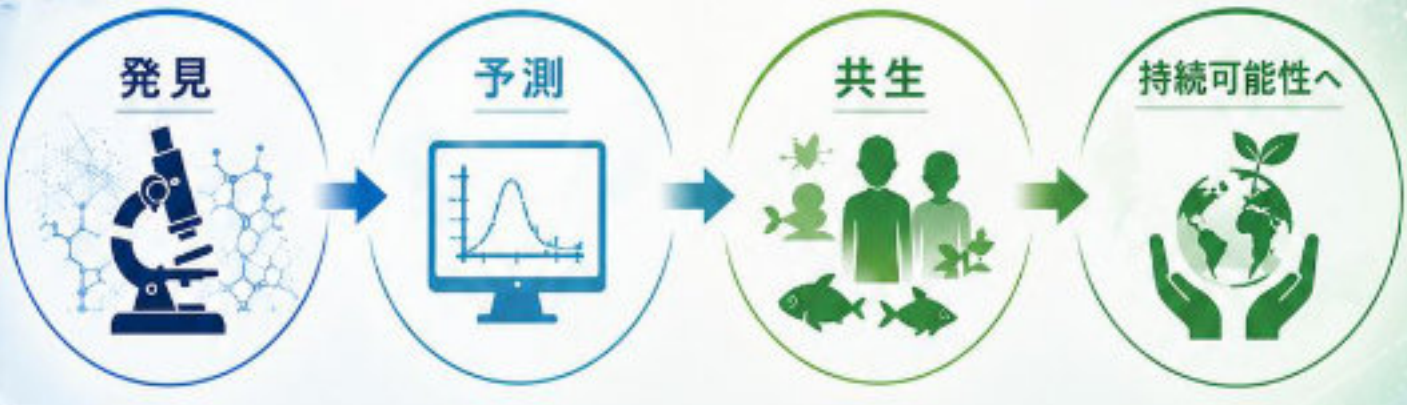
第28回
日本内分泌撹乱物質学会
研究発表会
プログラム
内分泌撹乱研究の次章
－発見から予測・共生・持続可能性へ－



会期
2026年
12月3日(木)～4日(金)

会場
文部科学省
研究交流センター
(つくば市)

大会長
小林 亨
(神戸大学国際海事研究センター)

お問合先
日本内分泌攪乱物質学会事務局
E-mail : secretariat@jsedr.org

詳細はこちら

プログラム

12 月 3 日(木)

基調講演　9:50-10:25　＜第 1 会場＞

「化学物質、廃棄物及び汚染に関する政府間科学・政策パネル（ISP-CWP）の新たな枠組みの中での科学の課題」

鈴木 規之（国立環境研究所）

特別講演 1　10:30-11:00　＜第 1 会場＞

「環境省における化学物質管理に係る動向と本学会関連トピックスについて」

川原 志郎（環境省 水・大気環境局 環境管理課）

シンポジウム 1　11:05-12:25　＜第 1 会場＞

「「シグナル毒性と内分泌かく乱 ― 分子イベントから有害影響をつなぐ」」

座長：宮崎 航（弘前大学大学院）
松島 綾美（九州大学大学院）

SY1-1「シグナル毒性の概念：発生・発達期の化学物質曝露による不可逆的影響の分子基盤」
菅野 純
（国立医薬品食品衛生研究所 安全性生物試験研究センター 毒性部/日産玉川病院 病診断科）

SY1-2「ビスフェノール類の受容体作用から見るシグナル毒性」
松島 綾美（九州大学大学院理学研究院化学部門）

SY1-3「ヒ素のシグナル毒性解明に向けて」
岡村 和幸（国立環境研究所 環境リスク・健康領域）

SY1-4「PFAS によるシグナル伝達かく乱と胎盤機能障害」
宮崎 航（弘前大学大学院保健学研究科生体検査科学領域）

シンポジウム 2　14:20-15:20　＜第 1 会場＞

「複合影響」

座長：江口 哲史（千葉大学予防医学センター）

SY2-1「環境疫学における複合曝露影響解析手法」
江口 哲史（千葉大学予防医学センター）

SY2-2「複合曝露影響推定のための統計解析手法の開発～Sparse Group LASSO WQS～」
川島 孝行（東京科学大学 情報理工学院）

SY2-3「農薬類の複合曝露が引き起こす相乗的神経毒性の同定とメカニズムの解明」
平野 哲史（富山大学 学術研究部 薬学・和漢系）

SY2-4「環境レギュラトリーサイエンスの文脈からみた化学物質複合影響の環境リスク評価につい
大野 浩一（国立環境研究所環境リスク・健康領域）

シンポジウム 3　15:25-16:45　＜第 1 会場＞

「環境省エコチル調査の「今、そしてこれから」」

座長：戸髙 恵美子（千葉大学予防医学センター）

SY3-1「エコチル調査宮城ユニットセンターより「妊娠前から子育て期までをつなぐ母子保健のあり方」」
大田 千晴（東北大学大学院医学系研究科発達環境医学分野）

SY3-2「エコチル調査熊本サブユニットセンターより「母体フェノール暴露と小児喘息の関連」」
倉岡 将平（熊本大学小児科）

SY3-3「エコチル調査千葉ユニットセンターより「母親の PFAS 曝露と子どもの身体の成長軌跡との関連（全体調査）および父親の PFAS 曝露と子どもの情緒・行動面の精神症状との関連（追加調査）」」
山本 緑（千葉大学予防医学センター）

SY3-4「北海道スタディより「北海道スタディから考えるこれからの出生コホート研究」」
池田 敦子（北海道大学大学院保健科学研究院）

一般演題 1　11:05-12:00　＜第 2 会場＞

「PFAS の使用実態・環境動態・生体影響」

座長：石橋 弘志（愛媛大学大学院）/ 藤原 悠基（群馬大学大学院）

O1-1　日本におけるフッ素含有農薬および PFAS 農薬の登録・出荷実態とトリフルオロ酢酸（TFA）生成の可能性
○木村―黒田 純子（環境脳神経科学情報センター）

O1-2　臨床検体における血清中 PFOS および PFOA 濃度の検討
○渡辺 紋世（名古屋大学大学院医学系研究科オミックス医療科学）

O1-3　難分解性有機フッ素化合物 PFAS の幼若期における生殖・内分泌撹乱作用の評価
○中塚 世愛子（大阪公立大学大学院学理学研科）

O1-4　野生鳥類・魚類における PFAS 調査について
○水川 葉月（愛媛大学大学院農学研究科）

一般演題 2　14:20-15:00　＜第 2 会場＞

「マイクロ・ナノプラスチック」

座長：川口 真以子（明治大学）/ 松島 綾美（九州大学大学院）

O2-1　マイクロカプセルを用いた魚類経口曝露手法の開発
○米山 宙舞（愛媛大学農学部）

O2-2　サイズの異なるマイクロプラスチックの生態影響評価
○兼藤 亮太朗（愛媛大学大学院農学研究科）

一般演題 3　15:25-16:40　＜第 2 会場＞

「生態影響」

座長：明正 大純（静岡県立大学）/ 渡部 春奈（国立研究開発法人国立環境研究所）

03-1　甲状腺ホルモン欠乏による魚類の不妊―メダカとゼブラフィッシュの甲状腺ペルオキシダーゼ欠損モデルに共通する生殖影響―
○明正 大純（静岡県立大学食品栄養科学部学部環境生命科学科）

03-2　メダカ拡張一世代繁殖試験による 4-*tert*-ブチルフェノールの内分泌かく乱作用の評価
○森田 隼平（株式会社三菱ケミカルリサーチ）

03-3　メダカを用いた魚類短期繁殖試験による農薬等 6 物質の内分泌かく乱作用の評価
○皆川 優作（株式会社三菱ケミカルリサーチ）

03-4　オオミジンコを用いる抗幼若ホルモン様作用短期検出系の開発：昆虫の JH 受容体アンタゴニストに着目したケーススタディ
○小田 悠介（国立環境研究所 環境リスク・健康領域）

12 月 4 日(金)

シンポジウム 4　9:15-10:15　＜第 1 会場＞

「内分泌撹乱物質研究の進展と国際連携の成果 ― 日英・日米共同研究を中心に」

座長：鑪迫 典久（愛媛大学）
小林 亨（神戸大学）

SY4-1「内分泌撹乱物質に関する研究および対応の歴史的背景」
井口 泰泉（横浜市立大学・大学院 生命ナノシステム科学研究科）

SY4-2「日英共同研究における水環境中の医薬品活性調査」
井原 賢（高知大学農林海洋科学部）

SY4-3「化学物質の内分泌かく乱に関する日米二国間協力と両生類試験法開発」
大西 悠太（いであ株式会社環境創造研究所）

シンポジウム 5　10:25-11:20　＜第 1 会場＞

「内分泌撹乱物質の試験法開発と国際標準化」

座長：鑪迫 典久（愛媛大学）
小林 亨（神戸大学）

SY5-1「環境省事業 EXTEND2022 の進捗状況について」
川嶋 之雄（日本エヌ・ユー・エス株式会社）

SY5-2「OECD 試験法開発における国際貢献・国際協力の概要」
山本 裕史（国立環境研究所）

SY5-3「EXTEND2022 の魚類試験体系に基づく 17β-エストラジオールの段階的評価」
渡部 春奈（国立環境研究所）

特別講演 2　13:30-14:00　＜第 1 会場＞

「One Health アプローチから考える内分泌・神経かく乱
―農薬曝露を切り口に、人・動物・環境の健康をつなぐ―」

池中良徳（北海道大学 One Health リサーチセンター）

市民公開講座　14:25-15:25　＜第 1 会場＞

「PFAS の生体への影響：最近わかったこと」

座長：鯉淵 典之（群馬大学大学院/太田医療科学大学）
鑪迫 典久（愛媛大学）
共催：環境研究総合推進費 5-2403 環境研究総合推進費 5MF-250

1. 「PFAS は脳の発達に影響する？-身近な環境化学物質と次世代への健康影響」
藤原 悠基（群馬大学大学院医学系研究科 応用生理学）

2. 「肝臓の健康を守るために-生活習慣と PFAS について」
今井 則博（名古屋大学大学院医学系研究科 総合保健学専攻 オミックス医療科学）

3. 「PFAS は魚の生殖機能に影響するか？-メダカを用いた影響評価-」
石橋 弘志（愛媛大学大学院農学研究科 生物環境学専攻生態系保全学教育分野）

一般演題 4　9:15-10:10　＜第 2 会場＞

「曝露評価・NAMs」

座長：冨永 伸明(有明工業高等専門学校)
Yang Mi（国立研究開発法人国立環境研究所）

O4-1　3-Methyl-4-Nitrophenol の新生仔期経口曝露が雌ラットの生殖器及び性選好性に与える影響
○前田 侑輝拓（明治大学大学院農学研究科）

O4-2　Ecological and Structural Drivers Underlying Mammalian Estrogen Receptor α Responses: I. Comparative Evolutionary and Machine Learning Analyses
○Dave Arthur R. Robledo (Center for Marine Environmental Studies (CMES), Premier Institute for Advanced Studies (PIAS), Ehime University)

O4-3　グルココルチコイド受容体応答配列設計による高応答性レポーター試験系の構築と環境化学物質スクリーニングへの応用
○金﨑 康平（九州大学大学院理学府化学専攻）

一般演題 5　10:25-11:20　＜第 2 会場＞

「ヒト健康・毒性影響」

座長：田中 豊人（東京都健康安全研究センター）
平野 哲史（富山大学研究推進機構研究推進総合支援センター）

O5-1　因果推論の科学、反応論、用量反応曲線の適用による自閉症など発達障害児をもたらす主要な原因である農薬の特定、無毒性量(NOAEL)、一日摂取許容量(ADI) の算定、及び日米への適用と予測、並びに自閉症発生の改善提案
○橋本 正則（MS パフォーマンス研究所）

O5-2　「エピジェノ毒性」を現行の毒性試験法に導入することの提案
○澁谷 徹（環境エピジェネティクス研究所）

O5-3　Neonatal Nanoplastic Exposure: Cross-Method Imaging of Brain Uptake and Long-Term Behavioral Assessment
○Yang Mi (Health and Environmental Risk Division, National Institute for Environmental Studies)

ポスター

コアタイム：12 月 3 日(木) 13:45-14:20
12 月 4 日(金) 11:25-12:10

A. 環境分析、曝露評価

P-1　生分解性プラスチックがメダカの腸内細菌叢に与える影響
○佐藤根 妃奈（新潟食料農業大学食料産業学部）

P-2　感熱紙顕色剤・増感剤がヒト乳がん細胞の遺伝子発現に及ぼす影響
○久留戸 涼子（常葉大学教育学部）

P-3　ベトナム・フーカット県における推定先天性疾患児の空間的集積：空間スキャン統計による探索的解析
○板谷 智也（宮崎大学医学部看護学科）

P-4　グルココルチコイド受容体応答配列設計による高応答性レポーター試験系の構築と環境化学物質スクリーニングへの応用
○金﨑 康平（九州大学大学院理学府化学専攻）

P-5　3-Methyl-4-Nitrophenol の新生仔期経口曝露が雌ラットの生殖器及び性選好性に与える影響
○前田 侑輝拓（明治大学大学院農学研究科）

B. PFAS・マイクロプラスチック・農薬・新興汚染物質の分析方法

P-6　熱分解 GC-MS を用いた再生プラスチック原料および製品中添加剤の網羅分析
○柿木 美遥（東京農工大学農学府）

P-7　長期海洋生分解性プラスチックの生態安全性評価手法の開発に向けた試料調整方法の検討
○吉武 ちさ（愛媛大学農学部）

P-8　難分解性有機フッ素化合物 PFAS の幼若期における生殖・内分泌撹乱作用の評価
○中塚 世愛子（大阪公立大学大学院学理学研科）

P-9　サイズの異なるマイクロプラスチックの生態影響評価
○兼藤 亮太朗（愛媛大学大学院農学研究科）

P-10　マイクロカプセルを用いた魚類経口曝露手法の開発
○米山 宙舞（愛媛大学農学部）

C. 内分泌撹乱の作用機構、AOP

P-11　甲状腺系攪乱物質によるメダカへの影響評価
○福岡 栞（東京理科大学　先進工学部）

P-12　メダカ胚を用いた核内およびＧタンパク結合型エストロゲン受容体を介した特異的遺伝子発現影響評価
○冨永 伸明（有明工業高等専門学校創造工学科）

P-13　17α-メチルテストステロン曝露が未成熟雌アユの生殖内分泌系および卵巣発達に及ぼす影響
○莚平　裕次（高知大学農林海洋科学部）

D. NAMs、予測評価

P-14　ゼブラフィッシュ胚を用いた内分泌かく乱作用マルチスクリーニング系の構築
○角谷 夏望（帯広畜産大学獣医学研究部門）

P-15　Ecological and Structural Drivers Underlying Mammalian Estrogen Receptor α Responses: II. Integrated In Vitro and In Silico Approaches
○Dave Arthur R. Robledo (Center for Marine Environmental Studies (CMES), Premier Institute for Advanced Studies (PIAS), Ehime University)

E. 生態影響、野生生物の影響、実態調査

P-16　マウス外生殖器における胎生期遺伝子発現と成体の形態パラメーターの統合解析
○羽月 渚太（東京理科大学大学院先進工学研究科）

P-17　ウズラエストロゲン受容体を用いた内分泌かく乱物質の活性評価
○杉本ニーナ（東京理科大学先進工学部）

P-18　日本近海固有種ニホンイサザアミを用いた新たな生態毒性試験法の開発
○石橋 弘志（愛媛大学大学院農学研究科）

P-19　環境医薬品の複合曝露がアユの行動に与える影響
○鈴木 悠（長崎大学大学院総合生産科学研究科）

P-20　下水処理水の影響を受ける淡水魚における抗うつ薬等の医薬品の部位別分布特性
○上舎 暖心（神奈川大学化学生命学部）

F. ヒト健康・疫学・リスク評価・エクスポソーム

P-21　クロチアニジンと共力剤の混合曝露によるマウスの次世代行動発達に及ぼす影響
○田中 豊人（東京都健康安全研究センター薬事環境科学部生体影響研究科）

2026年12月3日(木)

第1会場（国際会議室）

9:45 開会挨拶

9:50-10:25
基調講演
化学物質、廃棄物及び汚染に関する政府間科学・政策パネル（ISP-CWP）の新たな枠組みの中での科学の課題
演者：鈴木規之

10:30-11:00
特別講演1
環境省における化学物質管理に係る動向と本学会関連トピックスについて
演者：川原 志郎

11:05-12:25
シンポジウム1
シグナル毒性の概念：発生・発達期の化学物質曝露による不可逆的影響の分子基盤
座長：宮崎 航,松島 綾美
シンポジスト：
菅野 純,松島 綾美,岡村 和幸,
宮崎 航

12:25-13:45
昼食休憩

13:45-14:20
ポスターセッション
*全ポスター対象

14:20-15:20
シンポジウム2
複合影響
座長：江口 哲史
シンポジスト：
江口 哲史,川島 孝行
平野 哲史,大野 浩一

15:25-16:45
シンポジウム3
環境省エコチル調査の「今、そしてこれから」
座長：戸髙恵美子
シンポジスト：
大田 千晴, 倉岡 将平,
山本 緑,池田 敦子

第2会場（第2会議場）

11:05 - 12:00
一般演題1
PFASの使用実態・環境動態・生体影響

12:25-13:45
昼食休憩

13:45-14:20
ポスターセッション
*全ポスター対象

14:20-15:00
一般演題2
マイクロ・ナノプラスチック

15:25 ～16:40
一般演題3
生態影響

17:15　懇親会

2026年12月4日(金)

第1会場（国際会議室）

9:15-10:15
シンポジウム4
内分泌撹乱物質研究の進展と国際連携の成果 ― 日英・日米共同研究を中心に
座長：鑪迫 典久,小林 亨
シンポジスト：
井口 泰泉,井原 賢,大西 悠太

10:25-11:20
シンポジウム5
内分泌撹乱物質の試験法開発と国際標準化
座長：鑪迫 典久,小林 亨
シンポジスト：
川嶋 之雄, 山本 裕史,渡部 春奈

11:25-12:10
ポスターセッション

12:10－13:30
昼食休憩

13:30-14:00 特別講演2
One Health アプローチから考える内分泌・神経かく乱 -農薬曝露を切り口に、人・動物・環境の健康をつなぐ-
演者： 池中 良徳

14:25-15:25
市民公開講座
『PFASの生体への影響：最近わかったこと』
座長：鯉淵 典之, 鑪迫 典久
演者：藤原 悠基, 今井 則博,
石橋 弘志
共催：環境研究総合推進費5-2403

15:35-15:50
表彰式・閉会式

第2会場（第2会議場）

9:15-10:10
一般演題4
曝露評価・NAMs

10:25-11:20
一般演題５
ヒト健康・毒性影響